

田中信一郎先生のご質問にお答えして

朴勝俊

2020年3月12日

田中信一郎先生からツイートでご質問を頂いていることに、ある方からお知らせいただき気づきました。文字数が制限されたツイッターは回答に向かないので、以下、誤解が生じないように、先生からのツイートを全て引用した上で、ご質問にお答えさせていただきます。

-----引用開始-----

[1] 3月9日

それが「参考文献が緊縮派・財政破綻論者のものがほとんど」との根拠です。

そこで、朴先生に伺いますが、当方が参考文献で示している「緊縮派・財政破綻論者」とは、誰のことでしょうか？「ほとんど」とのことですので、少なくとも関係する参考文献の過半数は示していると思われま

[2] 3月9日

なお、当方は朴先生のいう「緊縮派・財政破綻論者」の定義を知りませんので、あわせてお示し願います。その定義に該当するのが、経済政策を論じる研究者が参考にする上で、極めて不適切な論者ばかりならば、先生の「スルーが吉」との論評も理解できます。その時は、自らの不明をお詫び申し上げます。

[3] 3月9日

第二質問：「経済・財政政策については、参考文献が緊縮派・財政破綻論者のものがほとんど。スルーが吉。」とのご評価について、極めて不適切な論者ばかり参考文献としたため、論じる上で、学説の違いというレベルでなく、致命的な事実誤認があったとのご指摘と理解しています。

[4] 3月9日

ご指摘を受けて自著を精査したものの、そこまでの事実誤認を見つけることができませんでした。

そこで、朴先生に伺いますが、当方の『政権交代が必要なのは、総理が嫌いだからじゃない』における学説や見解の違いにとどまらない事実誤認とは、どこでしょうか。それがあれば、論評も理解できます。

[5] 3月9日

第三質問：当方の本が、藻谷浩介さんや水野和夫さんの文献を「無批判に参照されている」

とのことでした。しかし、藻谷氏の文献については「人口減少と経済の関係を指摘する論者の例」として示したのみです。また、水野氏の文献については、背景理解のために読んだだけで、引用等はしていません。

[6] 3月9日

それにもかかわらず、朴先生はに両文献を「無批判に参照されている」と指摘しました。当方は、少なくとも両文献を抑制的に参考としたと考えています。

そこで、朴先生に伺います。先生は、どのような参考の仕方を「無批判に参照している」と評したのでしょうか。当方の本に即してご指摘願います。

[7] 3月9日

上記の質問に関連して、お教えください。もしかして、朴先生は自らの学説と異なる論者の文献について、参考とせずに論文を書いたり、参考としないよう学生に指導されていませんか。そうであれば、少なくとも当方とは研究や論文のスタイルがまったく異なりますので、誹謗中傷でないと理解できます。

[8] 3月9日

熱心にツイートされているようですので、当方の質問にもお答え願います。質問については、上記スレッドに改めて整理しました。当方としては、Twitter上のやり取りで解決したいと望んでいます。よろしく願いいたします。

[9] 3月10日

研究者でない方から見れば、わたしが朴勝俊・関西学院大学総合政策学部教授のコメントに回答を求める理由が不明瞭かもしれません。研究者にとって、自身の論稿を「読まないこと」を推奨（スルーが吉）されるのは、論稿の存在価値なし＝研究者の世界で「死んでいい」と言われるのと同じ意味なのです。

[10] 3月10日

みんなのしている前で、突然に「オマエ死んでいい」と言われたら、どんな人でも「なぜ？」と戸惑うことでしょう。朴勝俊・関西学院大学総合政策学部教授は、研究者の世界で「オマエ死んでいい」と言ったのです。彼へのわたしの質問は、そう言われた戸惑いの問いなのです。ご理解いただければ幸いです。

[11] 3月10日

一方、研究者の間で、論稿を「読まなくていい＝オマエ死んでいい」とする場合があります。

その論稿に、学問的あるいは社会的に価値がない場合です。倫理など論稿としてのルールを逸脱している場合や、論理・根拠の重大な瑕疵で論稿としての整合性に欠ける場合です。そういう意味では無慈悲な世界です。

[12]

当方の質問にもご回答をお願いいたします。なぜ、当方の本を論評しておきながら、メンションは無視されるのでしょうか？当方の職位が先生より低いからですか？当方の所属大学が先生の所属大学より弱小だからですか？

[13] 関西学院大学総合政策学部の朴勝俊先生 @psj95708651

なぜ、当方の切実な質問にはお答えいただけないのですか？メンションすると、しばらくご自身によるツイートが止まることから、ミュートはされていないと思うのですが。当方を論評して即ミュートもあり得ないでしょうし。

午後 8:19 · 2020 年 3 月 11 日

[14] 研究者でない方から見れば、わたしが朴勝俊・関西学院大学総合政策学部教授のコメントに回答を求める理由が不明瞭かもしれません。研究者にとって、自身の論稿を「読まないこと」を推奨（スルーが吉）されるのは、論稿の存在価値なし＝研究者の世界で「死んでいい」と言われるのと同じ意味なのです。

午前 7:47 · 2020 年 3 月 10 日

[15] 関西学院大学総合政策学部教授の朴勝俊先生 @psj95708651

ツイートするお時間ができたようで何よりです。お手数をおかけしますが、当方の質問にもお答え願います。共通に依頼されている論説原稿について、朴先生が当方を誹謗中傷していないことを受ける条件にしています。

午後 7:07 · 2020 年 3 月 9 日

[16] 「経済・財政政策については、参照文献が緊縮派・財政破綻論者のものがほとんど。スルーが吉。」と公言される朴先生と同じ誌面に、誹謗中傷でないと納得するまで、当方の経済政策の論説原稿を載せることはできません。編集者を困らせたくはないのですが、当方としても研究者の信用にかかわりますので。

午後 7:13 · 2020 年 3 月 9 日

-----引用終わり-----

田中先生に、これらのツイートを書かせるに至った、もともとの私のツイートは、

[A] ちょうど今日、田中信一郎先生の本を読んでいました。トータルにみれば学ぶべきところの多い良書です。経済・財政政策については、参照文献が緊縮派・財政破綻論者のものがほとんど。スルーが吉。賃金をあげる方法は、書いてなかったと思います～

午後 10:41・2020 年 3 月 3 日

※上のツイートは、ある方の以下のツイートを受けてのものです。

田中信一郎先生の講演を聞いた際に「賃金を上げる方法があります。それは明石順平先生の本に書いてありますのでそれを読んでください」とおっしゃっていて、周知されるハードルは高いなあと思いました。立憲民主党の広報の努力に期待して件の本を読んでおりませんが。午後 10:24・2020 年 3 月 3 日

[B] 政治的な詳しい内情はわかりませんが、当時の仙谷さんの経済ブレーンだった水野和夫さんに関しては批判的なレポートを書いたことがあります。

<https://economicpolicy.jp/2017/08/24/937/>

田中信一郎先生の良書『政権交代が・・・』でも、水野和夫さんや藻谷浩介さんは無批判に参照されています。

午前 11:43・2020 年 3 月 4 日

この2つだけだったのではないかと思います。

では、以下に順にお答えいたします。

前提： 私は総じて、田中信一郎先生の著書『政権交代が必要なのは総理が嫌いだからじゃない』と『信州はエネルギーシフトする』は良書だと考えており、全て通読して勉強させていただいております。周知の通り、私は反緊縮の立場であり、ツイッターで私にフォローして下さっている方も同じような考えかたですが、田中先生の本から学ぶことは多いのでお勧めします意味で紹介させていただいたものです。

その上で、書籍は商品ですから、飲食店が「これはうまい、あれはまずい」と批評されるように、工業製品が「かっこいい、便利だ、でも使いにくい」などと批評されるように、書籍も同様に批評されるべきだと思います。先生の上記のツイートでのご反応は、私の想像を超えるものです。

社会的影響力の大きな田中先生の良書が、マクロ経済の問題に触れずに、それ以外の個別具体的な政策のことを扱っていたのであれば、なんら、私の方から申し上げることはなかつ

たのです。しかし、いかに人々の所得や賃金を増やすか、デフレを脱却するか、雇用を増やすか、貨幣の価値を安定させるか、というマクロ経済に関わる問題に言及されているのですから、それが確固たる根拠の上に書かれているか、これまでの議論を十分に踏まえているかは、批判的に読まれざるをえないでしょう。なかでも、どのような論者に依拠してご発言されているかということは、真っ先に吟味の対象となると思います。

現在では、日本経済の停滞を打開する上で「緊縮か、反緊縮か」は政策上の最大の対立軸だと私は考えています。ここで、緊縮とは財政破綻やインフレを懸念して政府の赤字支出を無くそうとする立場と定義します。私は、世界的な経験からしても、極右諸政党の台頭や、経済の停滞、社会保障制度の疲弊をもたらした一因は、財政破綻恐怖症にとらわれた緊縮思想だと考えています。ですから、経済停滞時に財政赤字やインフレを恐れず政府は積極的に支出を増やし経済を底上げするべきだ、とくにひとびとのためにおカネを使うべきだという反緊縮の経済政策が導かれます。私は、野党の政治家や、日本をよい方向に変えようと努力されている各界の方々は、反緊縮の立場に立ったほうがよいと考えております。従って、緊縮的な言説に対して注意を喚起せざるをえません。

先生のお立場が緊縮か反緊縮かは、今回話題となっている本には明示されてはいないのですが、参考文献に上げられた経済学者のお名前を確認すれば、どのような方の論を主に参考にされているかを知ることができます。

以下、上記のツイートの番号順にお答えいたします。

[1]について

各章の参考文献ページを確認させていただきましたが、結果は以下の通りです。

- ・財政拡大・金融緩和に肯定的な経済論者（反緊縮派、など）

皆無

- ・財政拡大・金融緩和に否定的な経済論者（緊縮派・財政破綻論者を含む）

広井良典(p47)、藻谷浩介(p48 ほか)、服部茂幸(p88)、水野和夫(p88)、金子勝(p166)、野口悠紀雄(p16)、井手英策(p206)、など

基本的に、文献を参照したり引用したり、参考文献に挙げたりする場合、明示的に批判を加えるのでなければ、自説を補強する論拠としているはずですが、ですから、参照した論者がどのような方か、とりわけ経済学に関する最低限の基礎知識を踏まえているかどうか、読者の吟味の対象になることは避けられないと思います。上にお名前の挙がった方々の多くは、しっかりした専門知識やデータに基づいて、財政健全を論じておられると思うのですが、専門知識に関して私が疑問を抱いているのは以下のお二人です。

<参考>

水野和夫さん批判（朴）

<https://economicpolicy.jp/2017/08/24/937/>

藻谷浩介さん批判（菅原さん）

<http://baatarism.hatenablog.com/entry/20110105>

[2]について

緊縮派・財政破綻論者の定義について、補足する必要があるかもしれません。以下は私の個人的な定義です。

通貨発行権を持ち、自国通貨建て国債をし、変動相場制をとっている日本政府が財政破綻（デフォルト）を強いられることはありません。また、十分な生産力のある日本で、日銀当座預金とマネーストックは別の世界にあることから、ハイパーインフレは考えにくいことです。この状況で、日本が財政破綻する、ハイパーインフレになる、と主張して、政府支出の削減や消費税増税を主張する（あるいは消費税減税に反対する）人のことを、わたしは財政破綻論者と分類しています。

近年、反緊縮の立場の経済学者たちからは、財政破綻やハイパーインフレを心配することはむしろ有害であり、積極財政が必要であるという議論がなされていることは、ご存じのとおりだと思います。しかるに先生の本には、いわゆるリフレ派の岩田喜久夫、浜田宏一、飯田泰之、田中秀臣、野口旭、松尾匡、井上智洋などの方々のお名前は挙がっていません。外国の論者だと、クルーグマンやスティグリッツ、バルファキス、ブランシャールなどのお名前も挙がっていません。MMT論者のランドル・レイ、ミッチェル、ケルトン、藤井聡、中野剛志などのお名前も挙がっていません。古くはケインズや高橋是清も重要ですが、言及はありません。他方で、金子勝、野口悠紀雄といった方々や、「アベノミクス批判系」の方がたのお名前は参考文献に挙がっているわけです。

[3] 経済政策に関しては、何が正しいかは目的と手段の関係で考えるべきものですが、現在の日本の状況では、多くの方が不十分な労働条件の下、賃金が伸び悩み生活に困っている状況と、その原因としてのデフレ問題の解決が、重要な目的になると思います。

その中で「緊縮財政（別名：財政健全化）」は、最もやってはならないことです。

紙面の関係から本稿では詳しく説明できませんが、スタックラー&バス(2014)『経済政策で人は死ぬか?』（草思社）、ブライス(2015)『緊縮策という病』NTT出版、そして本当の意味で「ギリシャは対岸の火事ではない」という事実を表した本として、私どもが翻訳しました、バルファキス(2019)『黒い匣』をご一読いただけましたらと思います。

[4] 私は先生の本に事実誤認があるか否かについては言及していません。

一般に、経済政策に関して私が感じているのは次のようなことです。お医者さんに医師免

許が必要で、弁護士にも弁護士資格が必要なのに対して、経済学者にはそのようなものではありません。私自身、経済に関しては、経済の専門家以外のひとたちも（それぞれがステイクホルダーなのですから）積極的に議論に参加するべきだと考えています。ただ、経済現象の中には少なからず、常識や生活感覚、道徳感情では理解しきれないものが多く（合成の誤謬、節約のパラドクス、など）、本当に自分たちの利益になる政策を把握するためには、ある程度のきちんとした知識を持った人に依拠せざるをえないでしょう。

現状では、一般の人々は、本が売れているとか、テレビによく出ているとかで、経済学者の信頼度をはかるほかない状況ですが、そのようにして、マスコミに流布している経済論・財政論の多くは、必ずしも正しいものではありません。

国家資格のようなものがない中で、影響力のある方々が経済に関して根拠を欠いた発言をしている場合などは、私のような物には、読者・聴衆に注意を喚起する義務があると考えています。もちろん逆に、私が言っていることが間違っているという方々が、（私の発言を正確に引用した上で、論拠を示しつつ）私を批判することも必要だと思います。

[5][6] 私は、引用とは言わず参照と申し上げます。

先生の本では、本文や図表で明確に参照されていない文献も、参考文献に載せるということをやっておられるようです。しかし、学会誌や学術書ではふつう、本文・図表等で参照しているものだけを、参考文献に載せるのが普通です。

これは私が特に経済学者の立場から、水野さんや藻谷さんの、経済に関わるご発言を厳しく見ているということもありますが、ただただ参考文献に挙げただけでは、彼らの問題点を見抜けずに、自説に援用したものと受け止めざるを得ないのです。

[7] 私は、自説に援用するときは引用・参照するように、批判するときは批判的に引用・参照するようにと、申しております。

[8] 略

[9] 「読まなくていい」、「死んでいい」とは言っていません。完全なる曲解です。むしろ、前述したとおり、薦めています。

[10] 「オマエ死んでいい」とは言っていません。これも完全なる曲解です。

[11] 「オマエ死んでいい」とは言っていません。私のツイートは、田中先生の著書を良書として薦めた上で、「経済・財政政策については、参照文献が緊縮派・財政破綻論者のものがほとんど。スルーが吉」、と申したまでです。

[12] 私は職業や職位、所属大学に高低があるとは考えていませんし、そのような肩書きで相手を判断しておりません。ただ、ご自身の所属大学を「弱小」と SNS で発信されることは、問題があると思います。

[13] どうして私の所属大学名や職名をいちいち述べられるのか分かりません。今回の件とは何ら関係ないのではないですか？

[14] 「死んでいい」とは申ししておりません。

[15] 私自身は、田中先生を誹謗中傷したことはありません。むしろ、先生の本を良書と薦めた上で、私とはお考えの異なる部分について批判し、読者に注意を喚起したに過ぎません。作品を批評されるのは当然ではないでしょうか。

[16] 田中先生に原稿の依頼をされた雑誌が、私にも依頼をしてこられたことは事実です。この記事においては、私は田中先生になんら言及するつもりはございません。

[**] 最後に、先生は p.181 以降で、最低賃金の引き上げや、労働条件の改善に関する施策を提示しておられました。この点については、私も賛成です。給付付き税額控除にも賛成です。また、p.90 で「2019 年 10 月の消費増税には、次の 5 つの問題があり、いったん 8% に戻すことを検討すべきでしょう（後略）」と記されたことも、的確なご指摘と考えます。

ただ、基礎控除の拡大は、富裕層のみに対するベーシックインカムのような結果になりますので、必ずしも賛成ではありません。

他方、私は賃金を引き上げる手段として、デフレ脱却と GDP の底上げのために政府支出を拡大し、公務員を増やすこと、公的資金を用いて医療・介護・保育などの賃金を消防士や警察官と同じぐらいに引き上げる下げること、防災のために必要な公共事業を行うことなどが必要だと考えています。Y=C+I+G+EX-IM という式からも分かるように、政府支出の増加（G の増加）、消費税減税による消費喚起（C の増加）は、すなわち GDP の底上げであり、賃金と生産性の増加につながると考えています。ですが、この点では先生と意見の一致は見られないと思います。

以上、ご確認いただけましたら幸いです。私が申ししていないことを、言ったかのようにいうのはどうかおやめいただければと思います。

どうぞよろしく申し上げます。

朴勝俊